

28PA-pm417

医学部生、薬学部生における薬剤師に対する意識調査

○渡部 多真紀¹, 仲田 将樹¹, 渡辺 茂和¹, 鈴木 義彦¹, 齋藤 百枝美¹, 細野 浩之², 菊地 弘敏², 山本 貴嗣², 滝川 一², 土屋 雅勇¹ (¹帝京大薬, ²帝京大医)

【目的】平成 22 年 3 月に厚生労働省より「チーム医療の推進について」医療現場への更なる参画として薬剤師の役割拡大が示された。我々はその直後の第 130 年会日本薬学会から、医学部 5 年生が薬剤師に対してどのような意識・印象を持っているかのアンケートの報告をした。そこで今回は、医学部 5 年生と薬学部 4 年生に対して、薬剤師がどのような場面で必要とされているか、また薬剤師に対する印象について詳細なアンケート調査を行った。【方法】BSL (Bed Side Learning) 中の帝京大学医学部 5 年生 (2017 年 4 月～6 月) および薬学部 4 年生 (2017 年 11 月) を対象にアンケートを実施した。内容は「薬剤師から患者へ情報提供をしてほしい内容について」、「チーム医療を実施する場合、薬剤師を必要と考えられる項目について」、「チーム医療における専門薬剤師の必要性」など 6 項目、また薬剤師の印象に関して 25 項目 7 段階評価のアンケート調査を行った。

【結果および考察】薬剤師から患者へ情報提供をしてほしい内容として、医学部生は「副作用」が最も多く、薬学部生は「効能・効果」が最も多かった。チーム医療を実施する場合、薬剤師を必要と考えられる項目については医学部生、薬学部生ともに「がん薬物療法」が最も多かった。チーム医療における専門薬剤師の必要性は、医学部生が約 92%、薬学部生が 88%であった。薬剤師の印象で両学部生の positive なイメージの項目として「知的な」「役立つ」があり、negative なイメージの項目としては「複雑な」「困難な」と感じている学生も認められた。

これらの結果から薬剤師がチーム医療の中で活躍するためには、これまで行っていた患者に対する様々な情報提供とともに、さらに専門的な知識を深めることにより医師からチーム医療の一員としての参画が求められると考えられる。